

名古木の自然 花の素顔



自宅近くの風景

秦野市街から箱根連山の駒ヶ岳、金時山、富士山が遠望できる

はじめに

西には霊峰富士を望み、眼下には秦野市街と箱根の山々を遠望できる小高い地に居を構えて38年になる。裏山は、弘法山から大山に至る秦野市と伊勢原市の境界の尾根で我が家の周辺は、山あり谷あり、畑や水田、果樹園など自然が豊かに広がる里山である。この地区を名古木(ながぬき)と呼ぶが路傍の植物や昆虫、小鳥などの自然観察に没頭した一時期があった。趣味の写真を生かして花の素顔を撮影しながらクローズアップで見る花の美しさや意外性などに興味津々であった。この地区で観察できた草木の花は412種にのぼる。そのうち163種の花の写真と文をまとめて小冊子を手作りした。

万葉集に収められている歌は4516首あり、そのうち植物(花)の歌が約1500種、花の種類にすると163種ということである。植物との関わりがいかにかに多いかと言うことであり俳句の世界も同様である。この小冊子に収めたのも、花の数こそ同じ163種であるが万葉集に詠われている花と符合しているわけではない。文は、文献、百科事典やウェブページを参考に私の感想などを思いつくままに記述してみた。ついでに俳句の季語も調べて載せてみた。

JVCシニアクラブのホームページには、その中から興味深そうなものを選別して150種の花の紹介をさせていただくことにしました。